

1、2回目の委員会の要旨整理

- | | |
|------------------------|------------|
| 1 学校の規模に関するアンケート調査結果から | 20人程度学級 |
| 2 小規模校の教育環境 | メリット・デメリット |

論点整理

- | | |
|---------------|-------------|
| 3 社会性を学ぶという観点 | 不適応・問題行動 |
| 4 学力の定着という観点 | 上位30%・下位30% |
| 5 地域の教育力という観点 | 伝統文化・ふるさと学習 |
| 6 時代が求める教育 | 小学校教科担任制 |

1 学校の規模に関するアンケート調査の結果から

複式学級のある小学校と、学年1クラスの小規模校の小学校の7校のアンケート調査の結果を基にまとめました。

○ 現状の1.5倍程度の児童数を理想と考えている。

複式学級のある学校は、学年1クラスの小規模校を、学年1クラスの小規模校は、学年2クラスの学校を理想としています。

○ 50%程度が積極的に学校規模の見直しを必要と考えている。 将来的には必要と考えているのは90%である。

複式学級のある学校も、学年1クラスの学校も、同様の必要感を感じています。

2 小規模校の教育環境

- 地域に学校への無条件の愛情がある
- 小さいことによる安心感はある
- 現状に問題は感じないが、将来に責任をもつべき

すばらしさ	課題	改善
地域の自然や文化に直接関わる体験学習カリキュラムがある。	集団種目の喜びや難しさを体感できない。	校内で異年齢集団を形成し、活動や学習を柔軟に編成する。
教員と児童生徒の関係が密接で、相互の信頼関係を形成しやすい。	人間関係が固定化しやすく、社会性を学ぶ機会が限られる。	スクールバスで移動し、他校との合同授業を行う。
少人数であるため、全ての児童生徒に活躍する場がある。	いろいろな見方や考え方に触れ、思考を深めることが難しい。	オンラインによる他校との合同授業を進める。
個に応じた指導が日常的に行える。	正規教員が少なく、相談の窓口も少ない。	複式学級の授業の解消や教科担任制の導入を進める。

3 社会性を学ぶという観点

3年間の「小学校別の不登校児童数」「いじめ認知件数」「中学校の不登校生徒の出身小学校」「全国学力学習状況調査 質問紙」を基にまとめました。

○不登校児童数の割合は、小規模小学校、複式学級のある小学校は1.0%以下
小規模小学校、複式学級のある小学校は、不適応を起こす児童は少ないです。

○中学校における不登校生徒のうち、小規模小学校卒業生の割合は少ない
複式学級や小規模小学校を卒業した生徒は、中学校でも環境に順応しています。

○いじめ認知件数の割合は、小規模小学校、複式学級のある小学校が高い
学級の人数が少ないと、問題行動に対して、発見、認知しやすくなります。

○自己有用感を感じる児童の割合は、中規模小学校が高い
多くの児童や教師から賞賛される機会があり、自己有用感が高まります。

4 学力の定着という観点

5年間の「全国学力学習状況調査」の結果を基にまとめました。

○正答数上位30%、下位30%の児童の割合は、
学校規模による顕著な差はない。

学校規模に合わせて指導方法を工夫し、学力の定着を図っています。

5 地域の教育力という視点

小学校の地域に根ざした特色あるふるさと学習をまとめました。

○伝統文化

大桑城学習（高富）、梅原音頭（梅原）、大桑城登山（大桑）、史跡巡り（大桑・桜尾）
十六拍子（伊自良北）、竹灯籠作り（伊自良北）、神楽（美山）、葛原太鼓（いわ桜）
ススキミミズク作り（いわ桜）

○地域交流

世代を超えて（高富）、ゆう友ふれあいフェスタ（梅原）、かしの木フェスタ（大桑）
ふれあい学習（美山）、ふるさと祭り（いわ桜）

○学習支援

稲作（高富・梅原・大桑・伊自良北・美山・いわ桜）、サツマイモ栽培（富岡）
大豆栽培（梅原・大桑・伊自良南）、味噌作り（梅原）、栗の植樹（大桑）
桜の植樹（桜尾）、茶摘み（伊自良南・伊自良北）、アマゴ飼育（伊自良北・いわ桜）
ギフチョウ飼育（伊自良北）、イワザクラ育成（いわ桜）

6 時代が求める教育

○学力保証

異年齢学習（山県式イエナプラン）、異見交流（ダ・ビンチルーム）
オンライン学習、小規模小学校合同授業
複式学級解消（学年別授業）、小学校教科担任制

○実体験教育

森と川の学校（美山の自然の中で体験プログラム）
山と歴史の学校（大桑の遺跡を巡るアクティブラーニング）【予定】
防災と科学の学校（断層を調査し、防災対策研究レポート作成）【予定】
世界遺産・海体験（市内にない遺産や自然に触れる体験学習）